

令和 6 年 12 月 18 日
東京都中央卸売市場

千客万来施設事業等について

1. 「豊洲 千客万来」の開業

- 「豊洲 千客万来」は、本年 2 月 1 日に、知事や区長をはじめ、多くの来賓や関係者のご列席のもと、開業式典が執り行われた。
- 開業以降、連日、国内外からの多くの来場者により、施設は賑わっている。
- 食楽棟における購入者数が、一月あたり約 40 万人となるなど、事業者の想定以上の集客数となっている。
- 温浴棟における宿泊の利用者数は、客室が概ね満室となる状態が続くなど好調であり、日帰り利用者数は、開業直後は伸び悩んでいたものの、運営事業者による周知・広報などの営業活動の結果、増加傾向にある。
- 運営事業者は、施設の集客力を更に高め、一層の賑わいを創出するため、施設と新橋、門前仲町との間を往復する無料シャトルバスを運行している。
- 「豊洲 千客万来」の来場者が、豊洲市場にも足を運ぶ様子が見受けられるなど、相乗効果で賑わいを創出している。

＜参考＞ 「豊洲 千客万来」の来場実績（概数）

（単位：万人）

事項	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
食楽棟購入者数	41	50	41	44	44	37	35	34	38
温浴棟利用者数 (宿泊・日帰り)	4	3	2	3	3	3	4	4	3

※ 運営事業者である万葉俱楽部株式会社による来場者見込み

〔食楽棟〕年間 200 万人 〔温浴棟〕年間 60 万人



開業式典



開業を待つ来場者



食楽棟 2 階「時の鐘広場」



温浴棟 8 階「千客万来足湯庭園」

2. 連絡橋及び船着場の整備

- ・ 「豊洲 千客万来」と区立豊洲ぐるり公園（以下、「ぐるり公園」という。）を結ぶ連絡橋は、橋桁の鉄骨の製作やエレベーターの設置、現場での架設などの工事を経て、11月25日に供用開始した。なお、外構工事を含め、全ての工事の完了は、来年1月を予定している。
- ・ ぐるり公園の護岸に設置された民間の船着場については、本年8月に竣工し、12月9日に供用開始した。



連絡橋



船着場

3. イベント等の実施

（1）運営事業者による取組

- ・ 運営事業者は、時の鐘広場等を活用し、木場の木遣をはじめ、和太鼓や金管バンド、ダンスといった江東区の団体によるステージイベントのほか、区教育委員会や東京青年会議所江東区委員会、施設内の店舗等と連携し、区内の小学生を対象とした食育イベントなど、区や区内の団体等と連携したイベントを実施している。
- ・ また、市場らしさを演出するために、施設内の店舗と連携し毎月2回、「土曜朝市」を開催しているほか、夕方以降の集客増加のため、ビアガーデンや盆踊り、阿波踊りを開催するなど、来場者の満足度向上に向け、試行錯誤しながら、様々な取組を実施している。
- ・ 温浴棟では、地元の方々により一層ご利用いただけるよう、江東区民割引（令和6年3月1日から令和7年1月31日までを予定）を実施している。



木遣り



食育イベント

(2) 都による取組（「いちばの広場」における取組）

- ・ 都が設置したPRコーナー「いちばの広場」では、市場の役割などを楽しみながら学ぶことができるパネル展示や、ちりめんじやこ観察や煮干し解体などの体験型展示を実施しており、多くの方が訪れている。
- ・ 原則毎月第3土曜日には、豊洲市場の魅力発信のため、「豊洲 千客万来」の来場者を対象として、市場関係者と連携した豊洲市場紹介ツアーを実施している。
- ・ また、東京シティ青果株式会社や全国の産地と連携し、温浴棟1階「お祭り広場」において、3月から毎月全国の産地PRイベントを開催するとともに、令和5年度の「豊洲江戸祭」でも実施した模擬せり体験を隔月で開催するなど、市場ならではの賑わい創出に向け、都としても着実に取り組んでいる。



ちりめんじやこを観察しよう
(一般社団法人豊洲市場協会)



石臼コーヒーミルでコーヒー豆を挽いてみよう
(桶彦商店&カフェ・デザール ピコ)



豊洲市場水産仲卸売場紹介ツアー



いばらきメロンフェア&模擬せり体験（東京シティ青果株式会社）

4. 店舗の状況

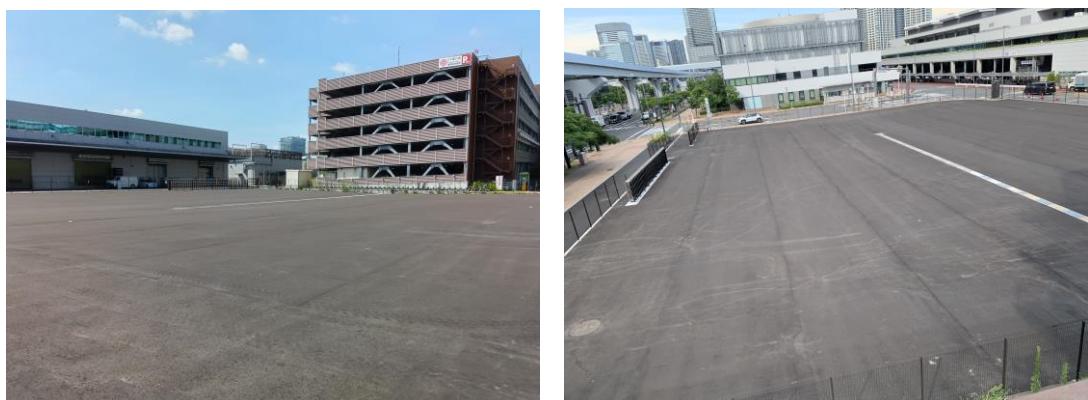
- 令和6年11月20日時点では、全65店舗のうち営業中は60店舗である。運営事業者は、更なる賑わい創出に向け、店舗の入れ替えなど適宜調整している。
- 棚貸シェアとして整備した「逸品屋えどこ」には、江東ブランド認定企業やことみせ登録店、豊洲市場魚がし横丁の店舗などが出品しており、訪れた国内外の観光客に、江東区の伝統工芸品等の魅力を知ってもらう機会を提供することで、区内産業の活性化にも寄与している。

5. 歩道上の駐輪や交通渋滞の状況

- 駐輪対策として、都と事業者が連携し、看板や誘導員による案内を行うことで、歩行者の通行の妨げとなる駐輪などを防止している。
- 周辺道路の交通渋滞対策として、事業者による誘導員の増強や入庫待ち禁止の看板設置などにより、週末を中心に一定の混雑は見受けられるものの、大きな事故やトラブルは発生していない。

6. 5街区の将来活用・暫定活用

- 江戸前場下町は、本年4月から施設の解体工事に着手し7月に完了した。



5街区用地の現状

- 5街区用地の将来活用については、「豊洲 千客万来」の開業による人流の変化など、様々な状況を考慮しつつ、段階的に検討を進めていく必要がある。
- このため、まずは活用の方向性を見極めるまでの間においても、賑わいを継続することを目的に、ベンチの設置などにより、来場者が気軽に立ち寄れるスペースとして暫定的に活用していくことを検討しており、そのために必要な環境整備として、照明設備等の整備を年度末までに行っていく。